

# シルバージュエリー 1日 体験コースレポート

ルバーコースを体験させてもらえる工房「Metallo Nobile」は、ピッティ宮殿の西側に、平行線状に横切る細い路地の一角にあります。

この工房でアシスタントを務める塩川あずさんは、吉祥寺のセレクトショップに自作のアクセサリ「Feliceazu」を卸しているほどの実力派。

シルバージュエリーだけに留まらず、ヴェネツィアンビーズや天然石などを使った、ビーズアクセサリも制作しています。

「たった1日（3時間）で本当に指輪が出来るの??」と思いますが、きめ細かな日本人講師の指導の下、初心者でもちゃんと作れちゃうんです。

弊社、フィレンツェのスタッフが「1日体験コース」にチャレンジしてみました！

以下、体験談を交えながらコースの紹介を致します！



工房は奥まで広くて、中々近代的。作業台では生徒さんたちが一生懸命作業を続けていました。

国籍も様々。日本人の生徒さんはもちろん、イタリア人、ペルー人、台湾人、メキシコ人など、世界各国からの生徒達が、この工房でシルバージュエリーの勉強に励んでいるそうです。

ちょっと作業を覗き見してみました。

みんなそれぞれの作品作りに真剣です。



1日体験コースは、平らく伸ばされたシルバーの板を加工していくところから始まります。

使用されるシルバーはスターリングシルバーと呼ばれる、一般に「シルバー925」と呼ばれるものになります。

溶かして型に流す作業は、作業温度が1000～2000度近くになり、危険度が高いことと、かなりの技術を必要とすることから、日本人講師の模範演習を見学させてもらうことになります。

前回の作業などで余った銀の破片や、失敗作なども溶かして再度加工することが出来るそうです。高温のバーナーで、銀を溶かしていきます。炎は青く発色している場所が一番高温だそうです。炎の角度を変えながら、一番温度の高い場所を探すそうです。

銀が完全に液体化し・・・あずさん曰く「ターミネーターの様な状態」（銀が液体化し、光沢が出る）になったら、型に流し固めるそう。

不純物などが混ざっていると、均等に液体化しないそう。

炎を離すと、すぐに銀が固まってしまうので、型に流すのも手早い。これは本当に難しそうです。



溶かした銀は水につけて温度を下げ、酸で洗う。加熱した銀は、表面が酸化皮膜で覆われているので、希硫酸液などに浸して酸化皮膜を取り除きます。プレスで少しずつ銀を伸ばしてゆき、最終的には一枚の薄い銀板が出来上がります。

これを指輪にしてゆきます。

最初に指輪のデザインを決めました。  
シンプルな平たい指輪、少し丸みのある指輪と2種類の指輪の形から選べます。  
私は表面が丸くなった指輪を作ることにしました。  
形を決めると、指のサイズを測り、必要な長さを出してゆきます。  
指輪を作るときは通常のサイズより2号ほど大きいサイズの合わせた長さを出すそうです。私は「人差し指に入る指輪が欲しいなあ。。。」と思い、長さを出してもらいました。

さて、銀板を糸鋸で必要な長さ幅に切りそろえてゆきます。  
作業対象となる物体が小さいので、何とも作業が難しい。おぼつかない手つきで、何とか必要な長さに切りそろえ、さらに鑪で形を整えてゆきます。

このままでは、銀を曲げることが出来ないなので、一度バーナーで炙ります。  
温めていくとだんだん表面が白っぽくなってきました。銀板の断面が赤くなってきたら火を止めます。  
あまり炙りすぎると、再び銀が溶け始め、表面に泡が出始め、又1からやり直さなくてはならなくなってしまうそうです。  
ほどほどに・・・と言うことでしょうか。。。  
炙った銀は再び水で温度を下げ、酸で表面を洗います。  
さて、いよいよ銀板が指輪の形に変化します！！

先端に丸みのついたペンチで指輪を少しずつ丸く曲げてゆきます。  
つなぎ目となる部分がお互いに反発しあうくらい、きつくつなぎ合わせます。  
これが意外と難しい。。。  
あずささんに手伝ってもらいながら、何とか丸い状態が出来上がりました。つなぎ合わせた部分に誤差が生じてくるので、そこを鑪できれいに整えます。つなぎ目となる部分の表面も、つながりやすいように糸鋸で少し削り、表面を整えます。

これを再びバーナーで炙り、つなぎ目を溶接していきます。今回は「ろう付け」という方法を用います。つなぎ目となっている部分に酸化防止剤を塗ります。これを塗らないと、ろうが巧くつなぎ目に流れてくれないそうです。  
つなぎ目部分の上と下の部分に小さく切った「ろう」をのせ、指輪を炙っていきます。  
指輪が温まると、「ろう」がつなぎ目にスッと入ってゆきます。  
指輪がつながると、再び水で温度を下げ、酸で表面を洗います。

次は指輪の形を整えます。丸くて長い棒状の型に指輪を通し、均等な丸みになるよう、外側からトンカチで叩いていきます。  
溶接が甘いと、ここで綱いた部分にひびが入ることがあるそうです。  
鑪で指輪の上下と、表面をならしていきます。



ここからは鑢でひたすら磨きます。最初は目の粗い棒状の鑢で表面をしっかりとらし、電動の鑢でさらに磨きをかけていきます。鑢の目をどんどん細かいものに変えていき、表面も内側もしっかりと磨きます。

単純に平たい指輪だと、ここで磨いた後、ワックスをかけたら終わりなのですが、私は丸みのある指輪が作りたかったので、さらにもう一仕事加えます。

もう一度指輪をバーナーで炙り、酸で洗います。

丸いくぼみのついたプレスに指輪を載せ、上から強く叩くと、下の方に少ひずつ丸みがついてきます。

上下を返しながら好みの丸みになるまで続けます。

再び作業台に移り、再び磨きの作業。電動の鑢を使い、細かなところまでしっかりと磨いていきます。磨き終わると・・・ぴっかぴか。。。

この指輪をさらにブラシで磨きます。毛の太いブラシで磨いた後、細いブラシで仕上げ。

洗浄器でワックスを洗い流すと・・・おお!!! シルバーの美しい輝きが。。。

普通だと、ここで終わりなのですが、私はさらに表面をスモーク加工したかったので(ごめんなさい。あずささん。お時間沢山とらせてしまって。。。)、

さらに細い針金のついたブラシで、表面に細かな傷を付けていきます。

結果は・・・

繊細なデザインの指輪が出来上がりました。結構お気に入り!! 所要時間3時間強。・・・う～ん。。。やっぱり素人だから、時間が掛かってしまいますね。。。

今回は丸みのあるデザインの指輪にしましたが、平たいタイプの指輪だと、表面に合えて少し凹凸をつけ、ハンマーで叩いたようなデザインの指輪も出来るとか。。。

もちろん太さやはめる指など、イメージにあわせたものを作ることが出来ます。

(人差し指用に作ったのですが、結局薬指にはまってしまいました。。。丸みをつけたため、少しサイズが小さくなってしまったようです。。。)

シンプルな指輪ですが、世界で一つの手作りリング。思い出が違いますね。

